

## 夏休みに考える教科の見方・考え方

令和8年7月21日

### 今年も猛暑が予想されています！「なぜ？」

ある塾のデータだが、高校生の受験勉強として大学合格のために必要な時間は、高校3年間で約3,000時間であるとし、3年間の日にちを考えると1日約3時間の勉強時間が必要だそうだ。夏休みの前に盛んに聞かもしれないデータである（夏休みにリカバリーしようという）。私自身もそうだが、夏休み前には、「これほしい」、「あれほしい」と漠然とした計画を考える。

6月のウェザーニュースによると、梅雨明けから8月にかけて、チベット高気圧の張り出しが強まる時期があることが予想されており、この時期は猛暑日、暑さが一層厳しくなるようだ。また、太平洋高気圧の張り出しも強く、平均気温が平年より高く、暑い夏になりそうだという・・・。

さて、このニュース、チベット高気圧の張り出し、太平洋高気圧の張り出し、とある。チベットは、内陸にある高気圧であり、シベリアなど内陸からの高気圧は冬の寒さを引き起こすのでは？私たちの日常は、ふと「なぜだっけ」と振り返ると、日常的に学校の授業で行っている内容が溢れている。これをいくつかの領域に分けていって、勉強しているのが、高校の教科である。そして、日常の出来事を「なぜ」と考えてあげることができると、高校で学んでいる教科で目指していることにつながってくると思っている（ふと、授業のことを思い出す機会を多くしてほしい）。※チベットなどの高気圧は夏は地面の熱を大量に吸収する。シベリアからの高気圧はフェーン現象を起こしやすい。

では、どんなことに「なぜ」と考えることが良いのか。ぜひ、夏休み前に、好きな教科または嫌いな教科を中心に先生に聞いてほしい。これが勉強を面白くして、勉強時間が有意義なものになっていくと私は思っている。

### 「なぜ？」を誰かと共有しようよ！

慶應義塾大学で認知科学の教授として活躍された今井むつみ氏は、『人生の大問題と正しく向き合うための認知心理学』（日経プレミアムシリーズ）の中で、「私たちは、なんとなく「自分の見ている世界」と「隣の人が見ている世界」は同じだと思っている。しかし、認知科学によって、そもそもを探ると、同じ写真を見ていても、人によって色の見え方が違うことがあることや、人は期待し予測しながらものを見ているため、文脈によって見え方が変わることから、世界は全く同じには見えていないのではないか。」という。

これを元に、私は、この夏休みに、身の回りのことから、「なぜ？」を見つけて、友人や家族、教員でもいいので、「なぜ？」を話し合うことを勧めたい。「なんで、そうなるのかね？」と。

今、学校の授業は、目標として各教科の見方・考え方を身につけさせている。

**例えば、【国語】**「対象と言葉、言葉と言葉との関係、言葉の意味、働き等に着目して、捉えたり問い直したりして言葉への自覚を高める。」つまり、本を読んだり、テレビを見たりして言葉に関することに「なぜ」を見出す。

**例えば、【理科】**「自然の事物・現象と、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する。」ふとした瞬間に目に入る自然に対して、「なぜ」を見出す。そして、今井氏のいう人と異なる世界を見ているのであれば、「なぜ？」をお互いに共有すると、自分の学んでいることが少し鮮明になると思うのである。そんな風にして、1学期の復習や、これまでに学んだこと振り返ってもらえると学校での勉強が少し、新鮮なものに変化するのではないかな・・・



## 夏休みを充実させるために、「なぜ？」を発動しようよ！

教科の見方・考え方は、身の回りを見渡すことで、どんどん身につけていくこともできそうである。そのためには、自分の周囲にあるものを見渡して、どんどん「なぜ」を探してほしいのである。

例えば、【外国語】「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを作って、再構成する。」ちょっと難しいが、**言語が違う人は、先ほどの「見ている世界」が全く異なっている**と考えて、相手を理解しようとする事かな。

【商業】「企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連づける。」つまり、**進路を考えたり、仕事に関する話を聞いたりした時に「なぜ？」を発動すると面白いのではないかな。**

【家庭】「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象と、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫する。」つまり、**夏休み中に食事にでかけたり、買い物をしたりした時がチャンス。**



最も面白いのは【体育】「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する、みる・支える、知る」の多様な関わり方と関連づける。」つまり、**自分で自由にやってみて、「なぜ」を見つけるんだという・・・**

これらは、ほんの一部である。**高校生の夏休みは、一瞬で過ぎていく。悔いなく。そして、しっかり勉強してほしい。**

## 夏休みに地域とどんなコラボができるか！酒蔵サイエンススクール企画

8月21日、25日、28日に、富士宮市と連携し、富士宮市の魅力を体感することで、サイエンスへの興味関心、シビックプライド、アントレプレナーシップを醸成することを目的とした静岡県立大学の企画を富士宮北高校、市内の酒蔵、富士宮市のチリンを会場として実施することになった。ぜひ、高校生の参加を期待したい（協定に基づき、4校にて参加募集）。企画としては、富士宮の湧水という自然資本、酒蔵という地域資源、若年層の富士宮市からの流出という社会課題、富士宮市の酒造ストーリーというプロジェクトを横断したものとなっている。

ぜひ、当たり前のようにある富士宮をあらためて体感してほしい。

今年も「English camp」が実施される。グローバルな活躍を目指す高校生も多くいるだろう。このような夏休みにしかできない計画を立てたり、参加したり、ぜひ積極的にチャレンジしてほしい。今年は、**サイエンス部生物班**が理系人材ハイレベル研究にチャレンジし、**見事、研究指定を勝ち取った**。7月25日に TECH BEAT2026(in グランシップ)に参加する。とても楽しみである。



## 生徒たちにつけたい力② 宮北 base 「自ら計画し実行する力」

前号に引き続き、生徒たちにつけたい力である。先生たちは、皆さんに、「根気強く努力すること」、「指示がなくても自分で何かをしようとする」、「後ろ向きな発言をしないようにすること」、「自ら進んで学習しようとする」、「空いている時間を見つけて、基礎を身につけようとする」などをしてほしいと願っている。

そのためには、目標を立てて、それに向けて、自ら最後までやり抜いたり、実現に向けて簡単に諦めずに向かいあったり、将来の自分のために努力してほしいと考え、このつけたい力を考えた。ここには、**目標設定力、時間管理力、継続力**などが含まれている。生徒に伴走する教員の思いを知ってほしい。

